

シリーズ市町村合併



はじめに

前 回は、地方制度調査会の「中間報告」の概要についてお知らせしました。

シリーズ14回目となる今回は、先の6月30日に、音更・土幌・鹿追・上土幌町の各町長、議長が集まり、「十勝北部ブロック首長検討会議」(以下、検討会議)が開催されましたので、その内容と最近の状況についてお知らせします。



北十勝4町の枠組みは白紙に

上 土幌町では町議会の第2回市町村合併調査特別委員会が6月18日に開催されています。委員会では多くが自主自立を基本とする意見ですが、一方で、やむを得ない場合に備える準備が必要とする意見等が次の通りあります。

「するとしても人口移動の少ない合併が必要」
 「上土幌の歴史や自立の精神が生きる方法を」

「経済基盤や生活基盤に大きな変化とならない枠組みを検討しては」

「シミュレーションを作り、税金などの住民負担や住民サービスがどうなるかを町民に示して判断を」

「国が交付税の将来のあり方を示していない中で行うシミュレーションをもって、判断をすることは危険である」

町長は「自主自立は大前提だが、様々な変化に対応できるようにしなければならぬ。自立するにしても広域行政は必要である。自立のシミュレーション作成は現在進めている。日々情勢が変化している。今段階の想定で行う事となる」と発言しています。この委員会の経過を踏まえて竹中町長と石川議長は検討会議に出席しました。

検討会議では、4町合併に前向きな音更町に対し、鹿追町が「町の形態が変わるような大規模な合併は望まない。人口規模も違うし、都市と山村は違う」と北4町以外の町との協議を望む姿勢を示しました。上土幌、土幌も4町の枠組みに対する考えを示し、各町それぞれが違った考え方があることが明確となりました。

その後、鹿追町の事実上4町の枠組みから離脱との発言に対して、「残る3町で任意協議会を」「あくまでも4町の枠組みを白紙として、今後はそれぞれが模索するべき」などの論議がされました。

結論として、「今まで4町の枠組みで協議してきたが、4町での枠組みについては困難であるため白紙に戻し、今後はそれぞれの町が、それぞれの新たな方向性を模索していく」ということとなりました。今後、北十勝4町での合併に向けた取り組みは無くなったこととなります。



土幌町に2町での広域行政検討を申し入れ

こ の十勝北部ブロック首長議長検討会議の結果を受けて、7月2日に第3回目の町議会市町村合併調査特別委員会が開催されました。

会議では、シミュレーションの必要性と問題点、広域行政の必要性等について議論がされました。

■音更との合併は人口流出の

現実、産業構造、経済実態の違いがあり、吸収されることが危惧される

■自主自立でも行政コストを少なくすることが不可欠である

■地方制度調査会の最終報告で人口要件が盛り込まれた場合、合併の道を選択せざるを得ないといったことも想定する必要がある

■合併を前提としないまでも産業、経済、人的交流の多い隣町と広域行政の検討を行う必要がある

委員会の結論として、土幌町と2町で広域行政検討の取り組みを進めるべきとなりました。

委員会終了後、引き続き特別委員会の理事会が開催され、直後に、石川議長・佐々木副議長・助役が土幌町へ出向き、2町での広域行政の検討について申し入れを行っています。



※詳しいお問い合わせや意見・質問は、企画課市町村合併担当(内線261・263)千葉・尾形・杉原まで